

Social Dancing 2012 模様

9月30日(日)赤羽会館において Social Dancing 2012 を開催しました。この日は各グループの行事と競合したためか参加者は41名と少なめだったが青山るりさんの演奏が素晴らしく、大いに盛り上がった。



MCの皆さんありがとうございました



ブランチの今後の主要行事予定

New Year Dance 2013

日時:2013年1月14日(月・祝)13:00~16:30
会場:赤羽会館 4F ホール 会費:1,000円
演奏:小海弘子(ピアノ)・大森ヒデノリ(フィドル)
MC:大野悦子・鳥山豊喜・五十嵐成子・小幡正明

プログラム

1. Flowers of Edinburgh (R32) Book 1
2. Mrs Stewart's Jig (J32) Book 35
3. Duke of Perth (R32) Book 1
4. Culla Bay (S32) Book 41
5. A Capital Jig (J32) RSCDS 2009
6. The Gentleman (S32) Book 35
7. Bill Clement MBE (J32) Wilkinson
8. Dancing in the Street (R32) Book 42
9. Anna Holden's Strathspey (S32) Book 42
10. Gothenburg's Welcome (J32) Book 37
11. Scott Meikle (R32) Book 46
12. Barbara's Strathspey (S32) Book 46
13. The Black Mountain Reel (R32) Haynes
14. General Stuart's Reel (R32) Book 10
15. Gang The Same Gate (S32) Book 36
16. Best Set in the Hall (J32) Book 46
17. The Montgomerie's Rant (R32) Book 10

Weekend 2013

期日:2013年5月31日(金)~6月2日(日)

会場:光が丘ドーム 宿泊:光が丘カデンツァ■

本部発行のマガジンは届いていますか？

本部発行のマガジン 15号(Scottish Country Dancer No. 15)が10月中にお手元に届いていることと思います。マガジン不着または住所・氏名の不備などがありましたら、セクレタリ尾崎淳子(T&F: 04-7152-5582)までご連絡をお願いします。■

Summer School 2012 参加特集

2012 私の体験

サマースクールでユニット5に挑戦

荒川 SCDC 富谷佐千子

ゴォーン、ゴォーン 108の音を聞いて‘12がスタートした。この正月、私の胸にそれまであり得ないと排除していた“想い”が大きくふくらみ灯をともした。

私はこのダンスの魅力に魅せられ、縁あって‘10のイグザム(日本)に挑戦した。楽しいダンスをつらいものにしたくない!もっと自分で楽しんでと。今後‘13に予定されている日本での試験、この大きな保険を手にサマースクールでのトレーニングを体験できる唯一のチャンスにトライしよう。

英語はできず、その上パソコン初心者。私の無謀な挑戦は期限ギリギリの所でスタートした。1月末までのレポート提出に悪戦苦闘し、3カ月後に評価の返却。スクールを目前に共通課題の提出、チューターからの宿題が届いた(各2ダンス)。不安に押しつぶされないよう心して大きな期待をふくらませ、旅立ちの日を迎えた。

スコットランド2人、ドイツ3人、イタリア、ロシア、ニュージーランド、南アフリカ、イングランドと私の11人。チューターはグラハム・ドナルド、ロバート・マッカイ(ピアニスト)のクラスがコモンルームで始まる。

各自宿題の課題ダンスをティーチング、グラハムとロバートの論評。2巡後、全員に新しい課題が出てプラン作成～実践となる。ラスト4ダンス目は、ボランティアダンサーをお願いして(クラスのない午後のみ)最初で最後の本番練習。必要最小限の言葉と伝えたい心でトレーニングを乗り越えた。グラハムは私の質問に時間を惜しまず、ゆっくり説明してくださり、ロバートは発音の難しいダンス名を何度も教えていただき、本当に感謝している。

楽しむ心で毎日のパーティに参加し、仲間との食事時が精神コントロールに大いに良い結果をもたらしてくれた。日々の積み重ねが大切。私を育てていた

だいている我がクラブにはただただ感謝の二文字だ。

<富谷佐千子さんは2012年のサマースクールでユニット5に合格され公認教師になりました>



2012. 8. 11sat この写真はサミュエル(後列いちばん左)がすべてコーディネートしたUnit5 唯一共有のもの

サマースクールそしてスコットランド

西森 典子

今年はエジンバラでアメリカから小杉さんも合流して総勢11名の寄り道しながらのサマースクールへの旅が始まった。オーバンでは前回発見した屋台で大盛りのシェルフィッシュに舌づつみ、霧雨の中グレンコーヤスリーシスターズの山並みを眺めながらフォートウィリアムへ向かう。マレイグまでハリー・ポッターの映画を思い出しながらジャコバイト号に乗ってカーブした橋と蒸気機関車が同時に見える瞬間をばっちり写真もとって大満足。



スカイ島はチャーターバスで島内の見どころをまわ

り、フェアリー・グレンでは羊に交じってミニハイキング。残念ながら妖精は発見できなかったがとても気分がリフレッシュ。インバネス、アバディーンと蒸留所やお城巡りなど楽しんでスコットランドに少し慣れて、いよいよ目的地セント・アンドリュースへと向かったのは成田を出てから10日になっていた。



皆興奮気味の様子で受付をすませ、それぞれ一週間のマイルームへ。今年は宿舎が町に近いので買い物とクラスへ通うのは楽ちんだったが、夜のダンスの会場はヤングホールと宿舎内のコモン・ルームで離れていて、両方を行ったり来たりできないのは不便であった。第三週参加は初めてで、思った通り顔ぶれが随分違っていた。ヤング・ウィークなので10代の子たちがいて可愛いし活気もあった。若いっていいな～。私のクラスはBill Zobel と James Gray、Jean Martin と Muriel Johnstone という組み合わせで、贅沢なクラスだった。Zobel はユーモラスにクラスを進めていった。もしクラスに足の調子の悪い人がいる時にいいのではとエコ・ステップでダンシングもした。ウォーミング・アップが十分でない時にも利用できるなと思った。しかし見せるためにステップの足さばきはキチンとしながらホップとかダウンを控えるのも結構きついものである。またミュージシャンでなくCDとかでクラスで指導する時の巻き戻す時間節約のためにほんの少し巻き戻して途中からの入る練習だと Zobel が再生ボタンを押す真似をし James が CD プレイヤーのつもり、適当な所から弾くのを聴いてダンスを始めるのだが、わざと分かり

にくいメロディを弾くので、みんな同じとらえ方で様子をうかがっていたようで過ぎてから、やはり！といった楽しい場面も。クラスで一緒だった Anne Taylor と最後の土曜日の Social Dancing を一緒に踊った時に Anne Grant も私なのと言われて Broadford Bay や Glemrothes がなんだか身近なダンスに思えてきた。

ケイリでは日本からは荒川の人たちも来ていたので一緒に故郷を歌った。歌の最後の方で小杉さんと二人であらかじめ隠し持っていた折り紙で作った口形を突然出して、口の前でパクパクと動かしながら歌うと笑い声が聞こえて、よし！少しは受けたね、とこちらも楽しんでみた。後で聞くと、前を向いてまじめに歌っていた他の仲間は、笑われたのが、音はずれたかな？と心配だったとか。



篤子さんのレディース・ステップ・クラスを受けた私たちはヤングホールのデモに出演でき貴重な経験を皆で味わえた。若い子もたくさんいたしホワイトドレス姿はやはり華やか。Elma とか Ruby さんがお孫さんに毎日付き添われて、いいおばあちゃん顔で、ほほえましかった。どこでも孫はかわいいものなのですね！この時の Welcome to Galloway は2001年私たちが初めてのスコットランド旅行で、篤子さんに連れて行ってもらい、故 Hope Little さんに教えてもらった（ご主人によるとこれが彼女の最後のクラスだったとか）ダンスであり、感慨深い想いで踊った。今年も愉快的仲間とのスコットランドの旅はいつまでも心に残るであろう。■

The Diamond Jubilee Dance 講習会模様

1 1月25日(日) 18:20~20:30 童夢館でエリザベス女王在位60周年を記念してRSCDSから出版された標記の6ダンスについて講習会が行われた。日曜日の夜の開催だったが26名が受講した。



運営委員会報告

10月6日

1. 9月30日実施のSocial Dancing 2012を総括した。他行事とのバッティングや台風等の影響で参加者は41名(含:見学2名)と少なかったが全体的に良かったと判

断。青山るりさんの演奏を評価。赤羽SCDC会員の助力に感謝。

2. 1月14日実施予定のNew Year Dance 2013のプログラム17曲を決定した。各MCの担当を決め、原則ワークスルーで依頼する。ブランチニュース12月号にプログラムを同封する。

3. Weekend 2013の日程を2013.5.31(金)~6.2.(日)、会場を光が丘ドーム(宿泊ホテルカデンツァ)と最終的に決定した。スクール講師およびケイリー・ダンシング担当候補に早急に打診する。Weekend 2012のアンケートをふまえた上で、11月中を目途にホテルの見積もりを取る。

4. Diamond Jubilee Dance講習会を資料なしで年内に開催する。会場は11月25日(日)または12月2日(日)童夢館を予定。講師をサマースクール参加のブランチ委員他に依頼する。12月号ブランチ・ニュースに案内を掲載する。

5. ブランチ・ショップの新商品販売は10月27日注文締切り、12月中旬発送予定。

6. 10月21日(日)に行われるクレメントさん告別式について、東京ブランチとしての対応を決めた。RSCDS東京ブランチ名で生花1基およびチェアマン名で弔電を送る。委員の参列は各自の任意とする。

11月3日

1. Diamond Jubilee Dance講習会を11月25日(日)18:20~20:30童夢館2F多目的室で開催する。資料未着のためダイアグラムを作成し当日の参加者に配布する。

2. New Year Dance 2013について確認した。プログラムはMCおよびミュージシャンに送付済。会員案内は12月号ブランチ・ニュースにチラシを同封発送する。

3. Weekend 2013のスクール講師3名およびケイリー・ダンシング総体的担当が受諾済と報告された。ミュージシャンは講師の要望を聞いた上で早急に打診する。ホテル・カデンツァの見積り結果が報告され、修正点を検討した。再見積りを取り、年内に予算を詰める。

4. ブランチ・レターNo. 93 の発行予定を検討した。
- 11 月末を目途に編集を終え、12 月初旬印刷所入り、ブランチ・ニュース2月号に同封発送する。
5. 11 月末本部への会費納入に伴い、現況総会員・家族会員・終身会員・半年会員の数を確認する。半年会員1名の10月入会が報告された。
6. 次年度ブランチクラス講師依頼は通常発送物とは別送で発送する。12 月初め発送、12 月末締切り、1~2月に決定・通知とする。
7. ブランチ賞はWeekend 2013で表彰予定。1月初め候補者募集を発送、2月中旬締切り、その後本部承認。
8. 2013 年行事の印刷物に RSCDS90 周年ロゴを使用する予定■

ブランチクラスで取り上げたダンス

1. ビギナーズ・クラス

4月9日 ティーチャー 寺久保 ヒロ子

1. Galloway House (R32) Gr.
2. It's all Right (J32) Gr.
3. The Deil amang the Tailors (R32) Book 14
4. Land O' Cakes (S32) Book 29

4月23日 ティーチャー 寺久保 ヒロ子

1. The Loch Ness Monster (R32) Gr.
2. Lady Home's Jig (J32) MMM
3. Corn Rigs (R32) Book 4
4. Invercauld's Reel (S32) Book 11
5. Dumbarton Drums (R32) Book 5

5月14日 ティーチャー 寺久保 ヒロ子

1. Lord Eglinton's Reel (R32) MMM
 2. The Express (J40) Book 20
 3. Balquidder Strathspey (S32) Book 24
- 5月28日 ティーチャー 寺久保 ヒロ子
1. The College Hornpipe (R32) Book 20
 2. Donald Bane (S32) Book 17
 3. The Eightsome Reel (R464) Book 2

6月11日 ティーチャー 寺久保 ヒロ子

1. Kendall's Hornpipe (J32) Gr.
2. Lady Susan Stewart's Reel (R32) Book 5
3. Dalkeith's Strathspey (S32) Book 9

6月25日 ティーチャー 寺久保 ヒロ子

1. Mrs MacLeod (R32) Book 6
2. Follow Me Home (J32) Book 33
3. The Deacon of the Weavers (S 32) Book 25

7月9日 ティーチャー 渋谷 明美

1. Leap Year (J24) Gr.
2. The Merry Reapers (J24) Gr.
3. 12 Coates Crescent (S32) Book 40
4. Watson's Reel (J24) Gr.

7月23日 ティーチャー 渋谷 明美

1. The Frisky (J32) Book 26
2. Rakes of Glasgow (S32) Book 11

8月13日 ティーチャー 渋谷 明美

1. Miss Welsh's Reel (J32) Gr.
2. Gramachie (S32) MMM
3. Kendall's Hornpipe (J32) Gr.

8月27日 ティーチャー 渋谷 明美

1. Corn Rigs (R32) Book 4
2. Bridge of Nairn (S32) BK 13
3. Light and Airy (J32) Book 4

9月10日 ティーチャー 渋谷 明美

1. Lord MacDonald's Reel (R32) Book 6
2. Culla Bay (S32) Book 41

9月24日 ティーチャー 渋谷 明美

1. The Birks of Invermay (S32) Book 16
2. The Dancing Man (R32) Gr
3. Light and Airy (J32) Book 4

10月8日 ティーチャー 神倉 那智子

1. The Highland Fair (J32) Gr.
2. A Jig for Mrs Dunn (J32) SCD for Children
3. A Reel for Jeannie (R32)

10月22日 ティーチャー 神倉 那智子

1. The White Cockade (R32) Book 5
 2. Mrs. Stewart Sinton's Reel (J32) Gr.
 3. Lady Lucy Ramsay (S32) MMM■
-

2. インターミディエイトクラス

4月2日 ティーチャー 松木 道子

1. La Flora (J32) Book 27
2. Ailsa Craig (S32) E. Forbes
3. Peggy Dewar (R32) Book 38
4. Catch the Wind (R32) Book 45

5月7日 ティーチャー 星野 薫

1. King Edward's Jig (S32) M. Short
2. The Flight of the Falcon (J32) B. Priddey
3. Junko and her Fellows (S32) T. Toriyama
4. Argyll Jig (J32) S. Inagaki
5. The Ring of the Hearts (S32) J. Matsushashi

6月4日 ティーチャー 神倉 那智子

1. Fairly Shot o' Her (J32) Book 26
2. Long Frank's Reel (R32) D. Queen
3. Mrs Hamilton of Wishaw (S32) Book 23

7月2日 ティーチャー 鈴木百代

1. Bill Clement MBE (J32) Wilkinson
2. Dumbarton Drums (R32) Book 5
3. Drumtochty Glen (S32) Leaflet

8月6日 ティーチャー 金田 治子

1. Follow Me Home (J32) Book 38
2. Mist o'er the Loch (S32) Diamond Jubilee
3. The Dancing Man (R32) Gr.

9月3日 ティーチャー 中田 多鶴子

1. Frir Jenny's Jig (J32)
2. Wishworthy (S32)
3. Mary Erskine (H32)
4. Sir J.M.Barrie of Thrums (R48)

10月1日 ティーチャー 渡部 多美子

1. The Gilly Flower (J32) Book 36
2. Bonnie Stronshiray (S32) R. Campbell
3. Cadgers in the Canongate (R48) Book 9

11月5日 ティーチャー 境 雅子

1. The Royal Patron (R32) Diamond Jubilee
2. Rodney's Rant (J32) Diamond Jubilee
3. Mist o'er the Loch (S32) Diamond Jubilee
4. The Castle of Mey (R32) Diamond Jubilee

5. Orwell Lodge Strathspey (S32) Diamond Jubilee ■

3. ゼネラルクラス

4月7日 ティーチャー 小幡 正明

1. Campbell's Frolic (J32) Book 15
2. Dumbarton Drums (R32) Book 5
3. Wells House (S32) R. Goldring
4. The World Turned Upside Down (R32-6)
I. Boyd

5月5日 ティーチャー 石田 由美

1. The Honey House (R32) B. Skelton
2. Double Top Jig (J32) A. Davis
3. The Rampant Unicorn Strathspey (S32)
J. Rae
3. A Trip around Salt Spring (R40) R.
Bennett

7月7日 ティーチャー 有田 典和・深雪

1. Lauraine's Delight (R32) J. Brechley
2. The Munro Rant (S32) MMM
3. The Kandahar Reel (R32)
Andy Colquhoun/ Rob Colquhoun

8月4日 Book 47 応募ダンス審査会

9月1日 ティーチャー 近藤 幸子

1. The First of September (R32) A. Dix
2. Anne Smyth (J40) S. L Gordon
3. Maureen of Hamilton (S32) J. Morrison
4. A Hamilton Ceilidh (R32-SQ) A. Fallas

10月6日 ティーチャー 若松 陽子

1. Tarry a While (J32) Gr.
 2. In Balance (R32) R. Goldring
 3. Monadh Liath (S32) J. Drewry
 4. The Reel of the Gordon Highlanders (R32)
A. L M Boode
 5. The Sporrán Legion (J32) M. Boehmer
-

2012年度 第4四半期のランチ・クラスとその講師など

開催月	Beginners Class 第2・4月曜日 13.30 - 16.00 500円(非会員700円)/クラス		Intermediate Class 第1月曜日 13.30 - 16.00 500円/クラス		General Class 第1土曜日 18.20 - 20.30 500円/クラス	
	1月	14日・28日	三木 真理	7日	大西 弘美	12日
2月	11日・25日	三木 真理	4日	境 雅子	2日	小山 かおる
3月	11日・25日	三木 真理	4日	篠塚 昌子	2日	鳥山 豊喜
担当	寺久保ヒロ子 03-3801-6139		疋田千鶴子 047-467-1922		井口弓子 048-924-9447	



UNIT 2, 3 and 5 試験日程のお知らせ

JEC2013より次のように試験日程が決まったので、試験運営に当たって協力をお願いする旨の連絡がきている。

日	時	試験	内容	場所
5/1	14:00~	UNIT 2	Dancing	注
5/2	9:00~18:00U	UNIT 5	Teaching	
5/3	9:00~17:00	UNIT 5	Teaching	
5/5	9:00~16:00	UNIT 3	Teaching	

注：千葉市文化センター
千葉市中央区中央 2-5-1



海外情報

International Branch Weekend in Ireland

インターナショナル・ランチのウィークエンドが2013年5月17日から20日迄、アイルランドのキラニーで開催される。

Scottish Country Dance Weekend in Finland

ハンガリー・ランチのウィークエンドが2013年8月16日から19日迄、フィンランドのトゥルクで開催される。

以上、詳細ご入用の方は e-mail でセクレタリ尾崎淳子 (junchi@ka8.koalanet.ne.jp) 迄 ■

最近の本部の動きから

AGM & Conference Weekend 2012

本年度ソサエティの年次総会とカンファレンス・ウィークエンドが11月2日~4日にアバディーンで開催された。東京ランチは会員数295名に対して6票の議決権がある。クレメント篤子さんの紹介により、年次総会における代議員としてブライアン・ハリリー(エディンバラ)とレスリー・マーチン(アバディーン)を依頼した。

Health Strategy

RSCDSは<健康戦略>と名付けたキャンペーンを立ち上げ、10月9日に行われたグラスゴー・カレドニアン大学に於けるアクティブ・エイジング世界会議で発進させた。スコティッシュ・カンントリーダンスがもたらす身体の健康・楽しさ・友好という3つの要素を重視し、全世界におよぶランチとアフィリエイト・グループのネットワークを通じてこれらの利益を伝え、さらには会員の増加を図ろうとするものである。

PDF 版ご入用の方は e-mail でセクレタリ尾崎淳子 (junchi@ka8.koalanet.ne.jp) 迄

RSCDS 90 周年

2013 年に RSCDS は創立 90 周年を迎える。本部では 90 周年を記念した特別のロゴをデザインし、ブランチ主催の行事などに使用することを奨励している。



以上、詳細は <http://www.rscds.org/> ■

ライブ演奏による Ball と ライブ効果を引き出す音響装置

清水 豊

最近ではフィドル、ピアノ等の組み合わせによるライブ演奏の Ball が多くなってきました。ライブ演奏ではミュージシャンが間奏曲 (オルトネイティブ・チューン) に日本人なら誰でも知っている曲目を入れるなど、独自の工夫を行って Ball を盛り上げてくれます。また、楽しく踊れるように会場の床の状態、ダンスの難易度、ダンサーの疲れ具合を見ながら微妙に演奏速度も調整してくれます。そして、2 カップル・ダンスの場合には、6 回だけの踊りに縮めて演奏してもらえます。このようにライブ演奏では CD など記録メディア再生では得られない大きな価値があります。つまり、ライブ演奏者は単なる CD 代わりではないことに多くのダンサーが気づき、ライブによる Ball が多くなってきたと思われます。この結果ミュージシャンが Scottish Country Dance の音楽

を演奏する機会が増え、演奏技量も一段と向上し、最近では素晴らしい演奏のもとで踊れるようになってきました。

ライブ演奏の素晴らしさを十分に引き出すためには音響装置の力を借りる必要があります。それは、楽器間の音の強さを調整しなければ、聴衆であるダンサーへ優れた演奏を効果的に届けることができないからです。

フィドルとピアノでは圧倒的にピアノの音が強く、音響機器なしではフィドルの音はピアノに負けて会場の後方では聞こえません。

そこでフィドルの音をマイクで拾いアンプで増幅してスピーカーから大きな音として会場に流します。この場合の音の大きさはピアノと整合するように調整します。これだけでライブ効果は大きく改善されますが十分ではありません。

ピアノの低域の音は遠くまで届きますが高域の音は遠くへは届きにくい性質があります。そこで、ピアノについてもマイクで音を拾い、高域になるほど音を強めるようにアンプで増幅し会場に流します。

以上がライブ効果を引き出すための大まかな音響機器の役割です。

実際には、できるだけフィドルやピアノだけの音を拾い、周囲の騒音や壁・天井からの反射音を拾わないマイクを使うなど音響技術に関する知識も必要です。コンサート向けに設計されたホールであれば、そこに備え付けられた音響設備で間に合う場合もありますが、多目的ホール、体育施設、ホテルの宴会場の多くは、持ち込みで準備しなければならない場合が殆どです。

フレッド・モイズ氏が仙台にきたとき、彼が要求した仕様で音響装置一式の設営と運営を専門のイベント会社に委託したことがありましたが結構な費用がかかりました。そこでクリス・ダンカン氏 (オーストラリア) が来たときは設備だけをレンタルして自力で設置・運営しましたがそれでも、それなりの費用が必要でした。これらの経験から現在は必要な音響装置一式を自前で揃え、主に東北のライブ演奏の Ball で活用しています。 ■